

国民年金保険料未納要因の検討

—金融に関する知識・老後の生活不安と未納行動—

村上雅俊



文部科学大臣認定 共同利用・共同研究拠点

関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構

The Research Institute for Socionetwork Strategies,
Kansai University

Joint Usage / Research Center, MEXT, Japan

Suita, Osaka, 564-8680, Japan

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/riss/index.html>

e-mail: riss@ml.kandai.jp

tel: 06-6368-1228

fax. 06-6330-3304

国民年金保険料未納要因の検討
—金融に関する知識・老後の生活不安と未納行動—

村上雅俊



文部科学大臣認定 共同利用・共同研究拠点

関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構

The Research Institute for Socionetwork Strategies,
Kansai University

Joint Usage / Research Center, MEXT, Japan

Suita, Osaka, 564-8680, Japan

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/riss/index.html>

e-mail: riss@ml.kandai.jp

tel: 06-6368-1228

fax: 06-6330-3304

国民年金保険料未納要因の検討

－金融に関する知識・老後の生活不安と未納行動－*

村上雅俊†

概要

本稿の目的は、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構が2012年2月に実施した『公的年金に関する意識調査』の結果を用いて、国民年金保険料の未納行動の背後にある要因を、特に、金融に関する知識と老後の生活不安という点を中心に検討することである。本稿では、この検討を行い、今後の詳細な研究のためのラフスケッチを描くこととする。

ロジスティック回帰分析の結果、以下の諸点が明らかとなった。第一に、金融に関する知識の不足は未納の確率を引き上げるものではないことが明らかになった。第二に、未納の確率を引き下げる要因として、「年金制度に対する信頼度」、「老後の生活費に占める受け取り年金額の予想割合」があり、これらが高ければ高いほど未納の確率は低くなった。第三に、「老後の生活への不安(年金)」が小さいほど未納の確率は引き上げることが分かった。また、有意水準10%では、「自身の所得」が高いほど、「老後の生活不安(面倒を見てくれる人)」を感じないほど、そして予想寿命が長いほど未納確率を引き下げることを確認した。

Keywords: 国民年金, 金融知識, 老後の生活不安, 年金保険料, Web 調査

*本研究は、平成23年度文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」による委託を受けて行った研究成果である。

† 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構 助教
E-mail: a094056@kansai-u.ac.jp

A Study on the Differences between People
Who Pay Pension Premium and Those Who Do Not
- Financial Literacy, Fear for Life after Retirement and Premium Payments - *

Masatoshi MURAKAMI[†]

Abstract

The purpose of this study is to clarify factors that enhance the odds of defaulting on premium payments using 2012 Web survey data from “Survey of Attitudes towards the Japanese Public Pension System,” especially in terms of lack of financial literacy (knowledge) and fear for one’s life after retirement.

The following results are obtained. Firstly, the lack of financial literacy is not the factor of defaulting on premium payments. Secondly, the higher the confidence in the pension system and the expected rate of pension benefit to living cost after retirement is, the lower the probability of absence of premium payment is. Thirdly, the smaller the fear for pension after retirement is, the higher the probability of absence of premium payment is. Furthermore, in the case that level of statistical significance is 10%, having a high income, having few qualms about looking after one’s retirement life, and a longer expected life period lead to reduce the probability of absence of premium payment.

Keywords: National Pension, Financial Literacy, Fear for Life after Retirement, Pension Premium,
Web Survey

* This work was supported by "a Promotion Project for Distinctive Joint Research" from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), April 2011 - March 2012.

[†] Assistant Professor, The Research Institute for Socionetwork Strategies, Kansai University
E-mail: a094056@kansai-u.ac.jp

1. はじめに

本稿の目的は、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構が2012年2月に実施した『公的年金に関する意識調査』を用いて、国民年金保険料の未納行動の背後にある要因を、特に金融に関する知識と老後の生活不安という点から検討することである。本稿では、上述の検討を行い、今後の詳細な研究のためのラフスケッチを描くこととする。この目的のために、第一に、先行研究について述べ、本研究の位置付けを行う。第二に、用いたデータについて述べることにする。第三に、分析手法と分析結果について述べ、そして最後に今後の課題について述べることにする。

2. 先行研究と本研究の位置付け

海外では、金融に関する知識と退職後のプランとの因果関係を論じた文脈の中で、金融に関する知識と年金との関係が統計的に分析されている。多くは、各国の近年の年金制度改革(reform)によって、老後の生活状態についての自己責任の度合いがいっそう増すこととなり、金融に関する知識の重要性が増すことを述べている。また、金融に関する知識がどの層で多いのかを、幾つかの基本属性別(性別、年齢別、学歴別)に分析している。金融に関する知識と退職後のプランを分析したものとして、例えば、Bucher-Koenen, T., Lusardi, A.(2011)やSekita, S.(2011)がある¹。金融に関する知識を測るための設問はおおよそ共通しており、利子の理解に関する設問、インフレの理解に関する設問、リスク分散に関する設問がある。これらの設問項目から金融に関する知識を測定しようとしている。

Sekita, S.(2011)では、金融に関する知識が退職後の生活プランに正の効果を持つことが実証されている。特に、金融に関する知識を問う調査項目3問にすべて正解した場合、退職後の生活のための貯蓄プランを持つ可能性が7%上昇すると述べている²。また、Bucher-Koenen, T., Lusardi, A.(2011)においても金融に関する知識が退職後の生活プランに正の効果を持つことが述べられている。

これらの研究は、近年の各国の年金制度改革によって、今後、金融に関する知識が重要になることを説いている。しかしながら、盛山(2007)が指摘するように、日本の場合は、「国民年金も厚生年金も入って損はしないようにできている」³ため、国民年金第1号被保険者であれば、金融に関する知識があるほど、老後の生活のために保険料を納めた方が得であるという判断を下すと想定できる。よって本稿では、国民年金が「お得な金融商品」であるがゆえに、国民年金保険料を支払わない人々に「金融に関する知識の不足」があると仮説を設定し、この仮説の真偽を統計的に検証することとする。

上記に加えて、本稿で用いる調査の対象者である20～59歳の現役世代が、老後の生活についてどの部分で不安を感じているかも本稿の分析対象とする。国民年金第1号被保険者

¹ それぞれ、ドイツ、日本について取り扱った研究となっている。

² Sekita, S.(2011), p.650 を参照。

³ 盛山(2007), p.13 より引用。

で保険料を納めている者と納めていない者の間で、老後の生活に対する不安がどのような点で異なるのかを検証し、またそれが保険料の未納にどう繋がるかを見る。

日本では老後の生活不安についての社会調査は数多く行われてきている。例えば、内閣府(2003)や、日刊工業新聞・goo リサーチ(2006)がある。また、内閣府(1998)は『国民生活選好度調査』において、老後の不安に思っていることを調査し、不安の要因の第 1 位として生活費に関する不安を挙げ、第 2 位として健康に関する不安を挙げている。加えて、金融広報中央委員会が実施している『家計の金融資産に関する世論調査』では、老後の暮らしについて調査している。老後の暮らしにおいて経済面で心配するその理由として多くは、十分な金融資産がないこと、退職一時金が十分でないこと、そして年金や保険が十分でないことがあるようである。

日本において老後の生活不安と年金との関係については、貯蓄性向の変化あるいは予備的貯蓄の増加という点から分析されることが多い。将来への不安を予備的貯蓄・年金不安から検証した研究として、村田(2003)がある。景気についての将来見通しや年金制度に対する不安が貯蓄行動へ影響を与えることが指摘されている。また、大来・クルマナリエバ(2006)においても、マクロデータから同様の関係を見出している。すなわち、老後の生活や年金についての不安が予備的貯蓄を高めるという結果を得ている。

ただし、現役世代が感じる老後の生活不安と国民年金保険料の納付と未納の関係を扱った研究はない。そこで本稿では、老後の生活に対する不安と保険料の未納行動との関係を検証することとする。

3. 分析に用いたデータ

本稿の分析に用いるデータは、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構が、2012 年 2 月に実施した『公的年金に関する意識調査』(以下 RISS 調査と略記する)である⁴。RISS 調査は、インターネット調査会社を通じて行った Web 調査である。調査の概要は、表 1 のようになる。Web 調査であるため、調査対象者は、Web 調査会社に登録しているモニターとなる。Web 調査は、郵送調査等と比較して、低価格で迅速に調査を行えるというメリットはあるが、標本の代表性という問題が解決されている調査方法ではない。標本の代表性を出来るだけ失わないようにするための処置として、標本の属性分布が母集団(国民年金第 1 号～第 3 号被保険者)の属性分布に適合するように、事前に性・年齢・被保険者番号別に個票の目標回収数を定め、定めた回収数まで登録モニターの回答を受け付けるという方法を採用した。目標回収数を表 2 に示している⁵。

⁴ 『公的年金に関する意識調査』の詳細については、RISS 経済心理学データアーカイブにある調査票を参照されたい。

【<http://www.kansai-u.ac.jp/riss/shareduse/database.html#socialwelfare>】

⁵ 調査設計段階において、目標回収数を 1000 に設定した。

表1 調査の概要

調査期日	2012年2月16日 ～ 2012年2月23日 (サンプル割り当てのための事前調査を含む)
調査対象	国民年金第1号・第2号・第3号被保険者 (学生を除く)
調査対象者の年齢	20～59歳
標本規模	1042
調査会社	マクロミル

表2 目標回収数

	女性			男性	
	第1号被保険者	第2号被保険者	第3号被保険者	第1号被保険者	第2号被保険者
20-24歳	29	22	2	33	20
25-29歳	16	30	11	16	43
30-34歳	16	26	24	16	55
35-39歳	17	23	30	16	56
40-44歳	14	21	26	14	47
45-49歳	13	20	24	13	43
50-54歳	17	19	23	16	41
55-59歳	35	20	24	23	47

4. 分析手法

ここでは、分析手法について述べることにする。本稿では、国民年金保険料の納付・未納の背景にある要因を、ロジスティック回帰分析を用いて探ることとする。被説明変数は国民年金保険料の未納・納付であり、未納を1、納付を0として取り入れている。免除制度利用者は未納者に含めていない。また、先に述べたとおり、国民年金は「お得な金融商品」であるがゆえに、国民年金保険料を支払わない人々に「金融に関する知識の不足」があることを仮定している。よって、金融に関する知識についての変数を説明変数として用いることとする。

RISS 調査に取り入れた、金融に関する知識を問う調査項目は、以下の通りである⁶。

Q あなたの預金口座の利率は年1%であり、物価上昇率は年2%である場合を想定してください。1年後に、この預金口座にあるお金で、あなたは、今日よりも多く物が買えると思いますか、それとも今日とまったく同じ分だけ物が買えると思いますか、今日よりも少なく物が買えると思いますか。

- 1 今日よりも多く物が買える
- 2 今日と全く同じ分だけ物が買える

⁶ 質問項目については、HRS(Health and Retirement Study)のFinancial Literacy moduleを参考に設定した。

- 3 今日よりも少なく物が買える
- 4 分からない

Q 次の説明は正しいと思いますかそれとも間違っていると思いますか。「ある一社の株式を買うことは、株式投資信託よりも安全に利益を得ることができる。」

- 1 正しい
- 2 間違っている
- 3 分からない

Q 利率が上がると、一般に債券価格はどうなると思いますか。

- 1 高くなる
- 2 安くなる
- 3 価格に変化はない
- 4 利率と債券価格に関係はない
- 5 分からない

また、老後の生活の不安については、幾つかの項目を設け、各項目についての不安の程度を尋ねている。それは次の項目についてどの程度不安に感じているかという変数となる。すなわち、自身の健康、生活費、住宅、家族の健康、親の介護、面倒を見てくれる人がいないこと、適当な話し相手がないこと、適当な趣味がないこと、仕事、年金、先行きに対する漠然とした不安である⁷。老後の生活費についての安心を買うという点で見れば、当該項目に対する不安が大きければ大きいほど国民年金保険料を納付すると仮定できる。ただし、老後の年金に対する不安が大きければ大きいほど国民年金保険料を納付するのか納付しないのかは分析結果を待たなければならない。なぜなら、不安は大きいけれども保険料を支払うという論も成り立てば、不安が大きいため保険料を支払わないという論も成り立つからである。

分析に用いた説明変数は付表 1 のとおりである。上記の金融知識に関する変数と老後の生活不安に関する変数以外に、以下の変数を取り入れている。年金制度それ自体を信頼する場合(説明変数 ID=1)、保険料を納付すると仮定する。また、保険料未納の要因としてあげられる流動性制約を確認するため被調査者本人の預貯金や所得(説明変数 ID=2, 3)を説明変数として取り入れる。これらに加えて、引退後の公的年金受取額の予想(説明変数 ID=4)を説明変数として取り入れている。引退後の公的年金の受け取り額が多いと予想する、あるいは、それが引退後の生活費の多くを占めると予想する場合に保険料を支払うと仮定する。

⁷ 老後の生活全般に対する不安感についての質問項目も RISS 調査にはあるが、老後の生活費と強い相関を示したので、分析からは省くこととした。

老後の生活についての不安と老後の資金についてどの程度考えているか(説明変数 ID=5, 9)も説明変数として取り入れる。また、年金保険料の未納者が危険回避的か否かを確認するため、危険回避性向に関わる変数(説明変数 ID=6)を取り入れている。

国民年金保険料の納付・未納の背景にある要因として、本人の予想寿命がこれまでの研究により指摘されてきた。本稿で用いるデータでそれが確認できるかを見るため、本人が予想する寿命が長いか短い(説明変数 ID=10)も説明変数として取り入れている。

先に述べた本稿での仮定、未納の要因としての「金融に関する知識の不足」を確認するため、自身で感じている金融や経済に関する知識量と実際の金融・経済に関する知識(説明変数 ID=7, 13, 14, 15)を説明変数に取り入れている。また、上記以外に、自信過剰の程度(説明変数 ID=8)、楽観主義的か否か(説明変数 ID=11, 12)を付加的に説明変数として取り入れた。

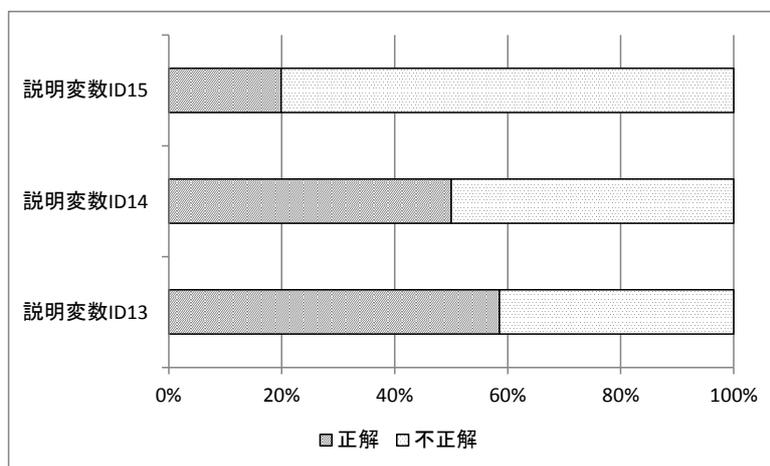


図1 金融の知識に関する設問の正答率

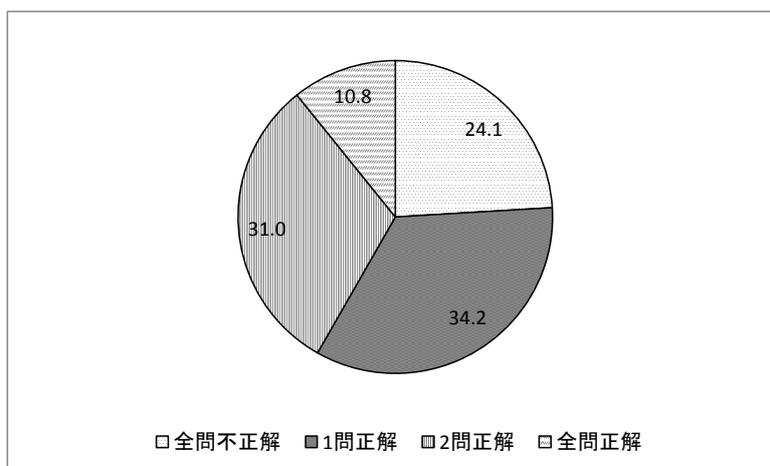


図2 正解数別の人数割合 (%)

本稿で用いた RISS 調査は、第 1 号被保険者、第 2 号被保険者、第 3 号被保険者を含んでおり、標本規模は 1042 である。以下の分析では、第 1 号被保険者のみに分析対象を絞って分析する。標本規模は 316 となる。その内、保険料納付の免除を受けている者を未納者としないので、未納者は 74 人となり、その比率は、23.4%となる。

なお、金融に関する実際の知識を測るために設けた質問項目（説明変数 ID=13, 14, 15）について、それぞれの正解の割合を図 1 に示している。正答率が一番高い質問項目（説明変数 ID=13）でさえ、正答率は 6 割弱であり、正答率が一番低い質問項目（説明変数 ID=15）に至っては、正答率は、2 割弱であった。また、設問 3 問について、正答した場合を 1、不正解(分からない)の場合を 0 としてまとめたのが図 2 である。すべての質問項目に正答した者の割合は 10%程度と非常に小さい。

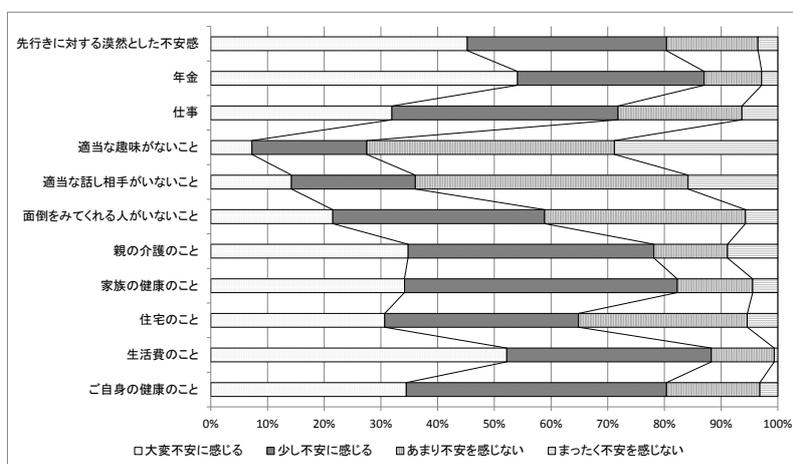


図 3 老後の生活についての不安感の割合

また、老後の生活に関する不安について、図 3 に示している。「大変不安を感じる」と「少し不安を感じる」を合計し、それが 80%を超えるのは、「自身の健康」、「生活費」、「家族の健康」、「年金」、そして「漠然とした不安感」となっている。国民年金第 1 号被保険者全体において、年金について不安を感じている人の比率が生活費について不安を感じている人の比率と並んで高くなっている。

5. 分析結果

変数減少法(尤度比)を用いたロジスティック回帰分析の結果を表 3 に示す。ここでは、第 1 号被保険者のみを抽出して分析している。未納の確率を高める変数は、老後についての不安(年金)であった。ここで注意が必要なのは、表 3 から明らかなように、未納の確率を引き上げるのが、老後の年金に対して不安を感じているということではなく、不安を感じていないという点である。一方で、年金制度への信頼度が高いほど未納の確率が下がるという結果となった。加えて、老後の生活費の大部分を年金でまかなえると予想する場合に、

未納の確率が下がるということも確認できる。

また、10%有意水準では、未納要因としての流動性制約を確認できることに加えて、未納要因としての予想寿命も確認できる。

表 3 から明らかなとおり、金融や経済についての実際の知識は、有意な変数とはならなかった。すなわち、未納の要因としての金融知識の不足という仮説は本稿の分析の結果、否定されることとなる。老後の生活についての不安は、年金に対して不安を感じていない場合に未納の確率が高まるという結果を得た⁸。

表 3 分析結果(被説明変数 1: 未納者, 0: 納付者)

		B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
年金制度への信頼度	1. 全く信頼できない ~ 5. 完全に信頼できる	-.382	.184	4.305	1	.038	.682
自分の所得	万円	-.002	.001	3.319	1	.068	.998
年金で老後の生活の何パーセントをまかなえると思うか	0% ~ 100%	-.017	.006	7.279	1	.007	.983
老後について不安に感じること(面倒を見てくれる人がいない)	1. 大変不安を感じる ~ 4. 全く不安を感じない	-.333	.182	3.362	1	.067	.717
老後について不安に感じること(年金)	1. 大変不安を感じる ~ 4. 全く不安を感じない	.446	.193	5.330	1	.021	1.562
あなたは、同世代の人の中で、平均的な人より長生きすると思いますか。	1. 平均よりかなり寿命が短い ~ 5. 平均よりかなり寿命が長い	-.242	.128	3.539	1	.060	.785
定数		1.084	.612	3.137	1	.077	2.957

6. まとめ

本稿の分析結果をまとめ、今後の課題を述べることでむすびとしたい。本稿の冒頭で仮定した、「金融に関する知識の不足は未納の確率を引き上げる」ものではないことが明らかになった。加えて、老後の年金について不安を感じていないほど未納確率を引き上げるという結果を得た。

未納の確率を引き下げる要因として、「年金制度に対する信頼度」、「老後の生活費に占める受け取り年金額の予想割合」があり、これらが高ければ高いほど未納の確率は低くなる。一方で、「老後の生活への不安(年金)」が小さいほど未納の確率は引き上がる。また、有意水準 10%では、「自身の所得」が高いほど、「老後の生活不安(面倒を見てくれる人について)」を感じないほど、そして予想寿命が長いほど未納確率を引き下げることを確認した。

未納の要因をより明確に明らかにするためには、本稿で用いた変数が、直接的に、あるいは、間接的に、保険料の未納という行動にどう影響しているのか、また、説明変数と被説明変数の間に介在する要因はないかという点から再検討しなければならないであろう。例えば、年金制度に対する信頼度の高さは、本稿の分析の結果、未納の確率を引き下げるものであった。一方で、未納の確率を引き上げるのは、老後の年金に対する不安のなきで

⁸ なお、付表 1 にある変数以外にも、子どもの人数や親との同居、金融の知識に関する自信過剰の程度(金融知識に関する主観的な知識量-実際の知識量)を説明変数として導入して分析したが、いずれも有意な変数とはならなかった。

あった。年金制度を信頼しておらず、また、老後の年金について不安を感じない(あてにしていらない)が故に保険料を納めないという構図も成り立つだろう。本稿の結果を土台に今後詳細な分析を行うためには、未納の要因を構造的に見ることが必要になる。これらの分析については稿を改めることとしたい。

【参考文献・資料】

- [1] Bucher-Koenen, T., Lusardi, A.(2011), “Financial Literacy and Retirement Planning in Germany,” *NBER Working Paper*, No. 17110.
- [2] Sekita, S.(2011), “Financial Literacy and Retirement Planning in Japan,” *Journal of Pension Economics and Finance*, October 2011 10, pp. 637-656.
- [3] 大来洋一, エルビラ・クルマナリエバ(2006)「貯蓄率と社会保障(年金)の関係についての実証分析」, *Research Report : I-2006-0005*, GRIPS Policy Information Center.
- [4] 金融広報中央委員会(2011)『家計の金融行動に関する世論調査 [二人以上世帯調査] 平成 23 年調査結果』, [【http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/yoron2011fut/index.html】](http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/yoron2011fut/index.html), 2012 年 3 月 15 日.
- [5] 盛山和夫(2007)『年金問題の正しい考え方ー福祉国家は持続可能か』, 中央公論新社.
- [6] 内閣府(1998)『平成 10 年度 国民生活選好度調査』, [【http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/99/19990223senkoudo/19990223c-senkoudo.html】](http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/99/19990223senkoudo/19990223c-senkoudo.html), 2012 年 3 月 15 日.
- [7] 内閣府(2003)『国民生活白書ーデフレと生活ー若年フリーターの現在(いま)』, [【http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h15/honbun/index.html】](http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h15/honbun/index.html), 2012 年 3 月 15 日.
- [8] 日刊工業新聞・goo リサーチ(2006)『老後の生活に関するアンケート』, [【http://research.goo.ne.jp/database/data/000353/】](http://research.goo.ne.jp/database/data/000353/), 2012 年 3 月 15 日 .
- [9] 村田啓子(2003)「マイクロデータによる家計行動分析ー将来不安と予備的貯蓄ー」, *IMES Discussion Paper Series*, No.2003-J-9.

付表1 分析に用いた説明変数

説明変数ID	変数(質問項目)	選択肢
1	現在のあなたの年金制度への信頼度を表すと以下のうちどれですか。	1全く信頼できない 2あまり信頼できない 3どちらでもない 4ある程度信頼できる 5完全に信頼できる
2	あなたご自身の預・貯金の普通・定期を含む合計金額をお教えください。	[]万円
3	昨年1年間のあなたご自身の年収	[]万円
4	公的年金で老後(引退後)の生活費の何%程度をまかなえるとお考えでしょうか。すべてまかなえると思う方は100%とお答えください。	公的年金で老後の生活費の[]%程度をまかなえると思う
5	あなたの「老後の」生活において不安に感じるのはどのようなことですか。(それぞれひとつずつ) ご自身の健康のこと 生活費のこと 住宅のこと 家族の健康のこと 親の介護のこと 面倒をみてくれる人がいないこと 適当な話し相手がないこと 適当な趣味がないこと 仕事 年金 先行きに対する漠然とした不安感	1大変不安に感じる 2少し不安に感じる 3あまり不安を感じない 4まったく不安を感じない
6	「虎穴(こけつ)に入らずんば虎子(こじ)を得ず」ということわざがあるように、高い成果を期待するなら危険を冒すべきだという考え方があります。その一方で「君子(くんし)危うきに近寄らず」ということわざのように、できるかぎり危険をさけるべきだという考え方もあります。あなたの行動は、どちらの考え方に近いですか。「虎穴～」の考え方に完全に共感する、を10点、「君子～」の考え方に完全に共感する、を0点として、あなたの行動パターンを評価してもっともあてはまるものを1つ選んでください。	1(虎穴)10 2 9 3 8 4 7 5 6 6 5 7 4 8 3 9 2 10 1 11 0(君子危うき)
7	あなたは金融や経済の知識をどの程度持っていると思いますか。	1平均的な人よりも金融や経済の知識はかなり少ない 2平均的な人よりも金融や経済の知識は少ない 3平均的な人よりも金融や経済の知識は若干少ない 4平均的な人よりも金融や経済の知識は若干多い 5平均的な人よりも金融や経済の知識は多い 6平均的な人よりも金融や経済の知識はかなり多い
8	あなたは、あなたの友人から100万円預かって資産運用を頼まれた場合、どの程度うまく運用できると思いますか。	1まったくうまく運用できない 2うまく運用できない 3すこしうまく運用できない 4すこしうまく運用できる 5うまく運用できる 6かなりうまく運用できる
9	あなたは老後の生活のための資金について、どのようにお考えですか。	1老後の生活資金の準備についてまったく考えていない 2老後の生活資金の準備について考えていない 3老後の生活資金の準備についてそれほど考えていない 4老後の生活資金の準備について少し考えている 5老後の生活資金の準備について考えている 6老後の生活資金の準備についてかなり考えている
10	あなたは、同世代の人の中で、平均的な人よりも長生きすると思いますか。	1平均よりもかなり寿命が短い 2平均よりも寿命が短い 3平均よりも少し寿命が短い 4平均よりも少し寿命が長い 5平均よりも寿命が長い 6平均よりもかなり寿命が長い
11	次の文章についてあなたご自身のご意見に最も合うものを選んでください 「自分はこの先盗難に遭わない」	1まったくあてはまらない 2どちらかというあてはまらない 3どちらとも言えない 4どちらかというあてはまる 5びったりあてはまる
12	次の文章についてあなたご自身のご意見に最も合うものを選んでください 「結果がよいか悪いかはつきりわからない時は、たいてい、最善を予想する」	1まったくあてはまらない 2どちらかというあてはまらない 3どちらとも言えない 4どちらかというあてはまる 5びったりあてはまる
13	あなたの預金口座の利率は年1%であり、物価上昇率は年2%である場合を想定してください。1年後に、この預金口座にあるお金で、あなたは、今日よりも多く物が買えると思いますか、それとも今日とまったく同じ分だけ物が買えると思いますか、今日よりも少なく物が買えると思いますか。	1今日よりも多く物が買える 2今日と全く同じ分だけ物が買える 3今日よりも少なく物が買える 4分からない
14	次の説明は正しいと思いますかそれとも間違っていると思いますか。 「ある一社の株を買うことは、株式投資信託よりも安全に利益を得ることができる。」	1正しい 2間違っている 3分からない
15	利率が上がると、一般に債券価格はどうなると思いますか。	1高くなる 2安くなる 3価格に変化はない 4利率と債券価格に関係はない 5分からない